

80年代アニメ論・その4

メガゾーン23とその周辺

出口 憲

今日の講演内容

- はじめに
- OVA の登場
- メガゾーン 23 前の状況
- メガゾーン 23
- 今が一番いい時

はじめに

- 出口は 1969 年生まれ
- 1980 年代は 11 ~ 20 歳だったので、まさしく 80 年代のアニメを見て育った
- 11 歳のとき、ガンダムがブームとなり、中学で友達からザブングルを見るように勧められ、以後アニメを見まくるようになった
- ビデオデッキを買ってから、放送時間が重なるものはほとんど録画（週 20 ~ 30 本くらいは見ていたはず）

はじめに

- 「80年代アニメ論・その1」では、月刊OUTというアニメ雑誌を取り上げ、80年代がアニメの成熟期であったことを論じた
- 「80年代アニメ論・その2」では、富野由悠季を取り上げ、「皆殺しの富野」とも言われる彼の作品が常にゆらいでいることを論じた
- 「80年代アニメ論・その3」では、宮崎駿を取り上げ、あまり知られていない軍事マニアの側面を論じた

OVAの登場

OVA とは？

- Origina Video Animation の略
- TV 放送や映画上映を前提とせず、ビデオ作品としてレンタルや販売されるアニメ
- 完全オリジナル作品もある
- 一方、視聴率の低迷や玩具の売上不信により、放送が打ち切りになったアニメの続編なども含まれる

OVA の最初の作品

- 1983年「ダロス」

OVA 登場の背景

- アニメファンの存在が広く認識されるようになった→アニメ雑誌が多く創刊されたことから明らか
- TV や映画だとできない表現を盛り込める（エロ・グロなど）
- 毎週放送する必要はないため、内容や質を上げられる

メガゾーン 23 前の状況

TV アニメの状況

- 1979年「機動戦士ガンダム」
- 監督：富野喜幸
- キャラクターデザイン：安彦良和
- メカニックデザイン：大河原邦男
- 人間関係のリアルな描写
- 量産型モビルスーツという発明
- 今のリアルロボットアニメのきっかけ

TV アニメの状況

- 1982年「超時空要塞マクロス」
- 監督：石黒昇
- キャラクターデザイン：美樹本晴彦
- メカニックデザイン：河森正治、宮武一貴
- アニメーター：平野俊弘、板野一郎
- 飛行機からロボットへ変形（バルキリー）
- アイドル歌手、リン・ミンメイ
- 巨大宇宙船の中に都市がある

余談：板野サーカス

- 板野一郎の描くシーンは板野サーカスとファンの間で呼ばれていた
- イデオンの全方位ミサイルが重機動メカを撃破するシーン
- マクロスのミサイルが飛び交うシーン
- メガゾーン23のバイクアクションは、本人がバイクに乗りながら、カメラを持って地上スレスレの映像を撮影し、それを元に絵を描いたという
- 当時は誰が絵を描くかが注目されていた

余談：板野サーカス

- イデオン

<https://www.youtube.com/watch?v=Cwf-DvQ-qol&t=39s>

- マクロス

<https://www.youtube.com/watch?v=uTRK8Ux2eXk&t=340s>

- メガゾーン23のバイクアクション

https://www.youtube.com/watch?v=_8t209-5X1A&t=1020s

TV アニメの状況

- 1983年「機甲創世記モスピーダ」
- キャラクターデザイン：天野喜孝
- メカニックデザイン：荒牧伸志、柿沼秀樹
- オートバイが装甲強化服へ変形（ライドアーマー）
- 飛行機からロボットへ変形、スポンサーがマクロスと同じ今井科学なので影響あり

ライドアーマーの変形

OVA ・ 幻夢戦記レダ

- 1985 年製作の異世界ファンタジー
- 女子高生が異次元世界に飛ばされてしまい、戦士として戦うことになるというストーリー
- 「いのまたむつみ」がキャラクターデザインしただけでアニメがヒットするほど人気があった（ウィンダリアとか）

メガゾーン 23

メガゾーン23

- 「機甲創世記モスピーダ」の後番組として企画
- マクロススタッフだった石黒昇、美樹本晴彦、平野俊弘、板野一郎が製作
- メカニックデザインは、モスピーダの柿沼秀樹、荒牧伸志ら
- 製作は「株式会社あいどる」というアニメショップと「ビクター音楽産業」
- 製作発表後の期待感も高く、実際、ビデオ等の売上成績もよかった

メガゾーン23の3作品

- メガゾーン23(1985年)
- メガゾーン23 PartⅡ 秘密く・だ・さ・い(1986年)
- MEGAZONE23Ⅲ イヴの目覚め(前編) / 解放の日(後編)(1989年)
- MEGAZONE23Ⅲ は前2作品よりもさらに未来の話なので今回は割愛
- メカ、美少女、アイドル歌手、巨大宇宙船内の都市などマクロスとほぼ同じ設定

メガゾーン23の舞台設定

- 時は遙かな未来、地球は大規模な戦争により荒廃した
- 地球環境を再生するため、地球管理システムA.D.A.M.が稼働された
- 人類は巨大都市宇宙船を建造、地球から500年間離れることとなった
- そのような巨大宇宙船の1つ「メガゾーン23」が舞台

メガゾーン23の舞台設定

- メガゾーン23は巨大コンピュータ・バハムートによって制御されている
- メガゾーン23内部は1980年代の東京が再現されている
- 住人たちはバハムートの管理下であり、1980年代の東京にいると思わされている
- 東京以外の場所に出かける際は、行ったと思うように記憶を植え付けられる

メガゾーン23の舞台設定

- 一方、他の巨大宇宙船であるデザルグはメガゾーン23に対して攻撃的な接触をしてくる
- メガゾーン23の軍はデザルグに対抗するため、バハムートの影響の及ばない地下で新兵器の開発を進めている
- いよいよ、デザルグの脅威が現実のものとなりつつある

アイドル・時祭イヴ

- メガゾーン23では、アイドル「時祭イヴ」が活躍している
- 時祭イヴは実在しない、巨大コンピュータ・バハムートが作り出した幻影
- 実は地球帰還に関わる重要な役割がある
- 今のバーチャルアイドルと同じ=古くない設定として評価できる
- キャラクターデザイン：美樹本晴彦
- 声優は本当のアイドル歌手：宮里久美

アイドル・時祭イヴ

アイドル・宮里久美

主人公・矢作省吾

- バイクと女の子が好き
- 軍が極秘に開発した兵器「ガーランド」を友人が手に入れてしまい、事件に巻き込まれる
- 「ガーランド」を時祭イヴの生放送番組で公表しようとするが軍による情報操作で失敗
- 軍が秘密裏に戦争準備をしていることを知る
- 声優は、久保田雅人 (Part I 、ワクワクさん)、矢尾一樹 (Part II)

主人公・矢作省吾

Part I

Part II

ヒロイン・高中由唯

- 矢作省吾にナンパされて知り合う
- プロのダンサーになるのが夢
- 省吾と知り合ったことで事件に巻き込まれていく
- 由唯は友人2人と同居しているが、彼女の友人達も巻き込まれていく
- 声優は川村万梨阿

ヒロイン・高中由唯

Part I

Part II

ガーランド

- 軍が極秘で開発した兵器
- バイク型のマニューバクラフトから人形のマニューバスレイブに変形可能
- 車などにぶつかっても平気
- 名前の由来は中が「がらんどう」だから

今が一番いい時

なぜ、1980年代か？

- メガゾーン23の中は1980年代の東京ということになっている
- 製作されたのが1985年というのもあるが、1980年代が「一番いい時代」と表現された
- 1980年代米ソの核戦争の不安があった
- 中曽根首相の「不沈空母」発言もあった
- 一方、今のような格差もなく、日本人のほとんどが「自分は中流である」と答えた時代であった

なぜ、1980年代か？

- だが、一方で軍部は密かに戦争準備をしている
- そして、巨大コンピュータ・バハムートが軍の支配下になり始め、戦争ムードが高まってくる
- 時祭イヴも戦争のために利用されていく
- Part I で矢作省吾は軍に挑み、叩きのめされて終わる
- Part II では…

メガゾーン 23 が投げかけるもの

- 高中由唯の「今が一番いい時代だと思うから」という台詞がある
- この台詞のとおり、1980年代は「いい時代」であったと思える
- 経済的に豊かで、未来は明るく、願望が叶うと思えた時代＝1980年代
- 今は果たして「いい時代」だろうか
- 2021年、以前より戦争の気配がするような…

参考文献等

- ウィキペディア「メガゾーン23」
- 「ジ・アニメ特別編集 メガゾーン23PartⅡ」、近代映画社、1986年
- その他、アニメ誌多数あり

持ってきているものもあるので、興味のある方はどうぞ